

茨木市立白川小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|--------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | やや課題が残る結果だった |
| ②情報の扱い方に関する事項 | やや課題が残る結果だった |
| ③話すこと・聞くこと | 課題が残る結果だった |
| ④書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑤読むこと | やや課題が残る結果だった |

(問題形式)

- | | |
|------|--------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果だった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

やや課題が残る結果だった

(その他)

- もっとも正答率が高かった設問・・・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる内容
- もっとも正答率が低かった設問・・・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き、表し方を工夫することができるかどうかをみる内容
- もっとも無解答率が高かった設問・・・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる内容

分析

1 成果

選択問題ではあるが、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する力が向上していると考えられる。新聞づくりや単元のまとめを書く学習の成果が見られる。

2 課題

条件作文に課題がある。設問が示す意味を読み取ることが難しく、絵や図だけをみて判断していると推測できる。また、初見の文章を読む力に課題があると思われる。文章を読み取る力を向上させるためにも、たくさんの文章に触れる機会や語彙力を高めることが必要だと考える。

3 授業での重点的な取組み

- ・初見の文章の読み取りになれるために、教科書以外の文章に触れる機会を増やす。
- ・語彙力を高めるために様々な場面で言葉の意味に触れ、その言葉を使って文章を書く。
- ・条件付きの文章を書く機会を増やすために、授業での言語活動において、相手や目的意識を持たせる。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|---------|--------------|
| ①数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④データの活用 | やや課題が残る結果だった |

(問題形式)

- | | |
|------|--------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果だった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- もっとも正答率が高かった設問・・・図形の定義を理解し、解答する内容
- もっとも正答率が低かった設問・・・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる内容
- もっとも無解答率が高かった設問・・・示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる内容

分析

1 成果

図形の定義を理解する児童が多いのは、普段の授業の中で具体物を用いて説明したり、実際に図形を描かせたりする中で身についたためであると考え。

2 課題

児童の解答を見ると、問題文を注意深く読めていない傾向がみられた。そのことが無解答にもつながっているとみられる。また、表やグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することに課題がある。そして問題文を最後まで読み取ることができておらず、問われている内容を把握できていないとみられる解答も多かった。

3 授業での重点的な取り組み

- ・条件付きの文章表記になれるために、ふりかえりやまとめを条件付きで書く。
- ・グラフ等からデータの特徴を捉えたり、見いだしたりしたことを表現する問題を解く時間を設け、宿題等においても定着を図る。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

今年度の結果については、国語、算数ともに全国平均を下回る結果となった。無解答率も昨年度と比較すると増加している。国語、算数ともに文章や表を読み取る力や書く力に課題が見られることから、条件付きの文章を書くことや語彙力を高める必要がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

今年度の結果は昨年度と比較すると、算数に関しては、高位層がほぼ横ばいで低位層が増える結果となった。一方、国語に関しては、高位層と低位層ともに増える結果となった。どちらの教科に関しても低位層が増えたことから、すべての子どもたちが学びに向かえる授業づくりが必要である。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

1. 学力向上の目標

「子どもたちから多様な考えがでるような、主体的・対話的な授業」について研究する。

(子どもたちが主体的に取り組むために)

- (1) 基礎学力の育成
- (2) 学びに向かう姿勢の育成
- (3) 授業の工夫

(子どもたちが対話的に取り組むために)

- (4) 仲間づくり
- (5) 授業の工夫

2. 具体的な取り組み

(1) 基礎学力の育成

- ① 授業改善の視点の明確化と学習ルールの確立→中学校区で取り組んでいる【東雲スタンダード】の実施
- ② 児童の学習用具の統一
- ③ 宿題の工夫

(2) 学びに向かう姿勢の育成

- ① 教職員で児童の様子をていねいに交流し、学級での取組みを共有する。
- ② 「わかった。うれしい。もっと知りたい。」と思える課題の設定を学校全体として追及していく。
- ③ 認知能力の向上だけに意識を向けるのではなく、興味を持つことやチャレンジ精神、協力する力などの非認知能力を意識した授業づくりを追求していく。

(3) 授業の工夫

- ① 研究授業を学期に1回行い、教職員同時で高めあう。
- ② 研究授業の際には必ず模擬授業を行い、当該学年担任だけでなく、校内学力向上部全員で授業を考える。

3. 学力テストの結果より（新たに始めるもの・今後の計画）

課題が見られた語彙力、文章を読み取る力や書く力の定着を図るために、教職員全体で取組みを考え、宿題を見直す等、系統立ててできる学習内容について追求していく。また、対話的な授業をめざして、ペア学習やグループ学習の充実を図り、ふりかえりやまとめの時間に条件付きの文章を書く機会を設ける。